

この数字は、本年二月九日に行われた、東京都知事選挙において、つばさ会会員である第29代航空幕僚長 田母神俊雄候補の得票数である。

「勝たなかったが、負けてもない」というのが実感で、ご存じのとおり自民党・公明党の支持を得た舛添要一氏が当選し都知事となった。

私は選挙事務所事務局長として田母神陣営を円滑に運営し、航空幕僚長経験者として、恥ずかしくない戦いを行えるよう、老骨に鞭打って務めた。

選挙は大義が大事である。田母神氏の大義は「現在の自民党は安倍政権とは言えない、安倍総理を首都東京から支え、本来の保守・日本を取り戻す先兵になりたい」というものであった。何の組織も持たず、特定の政党の支持もなく善戦したものと思っている。

今思うに、自衛隊の戦い方に似ていたなと思う。「勝たないけども負けない」同じではなからうか。この選挙戦を振り返り、少し所感を述べさせていただくこうと思う。

支持政党がない、労働組合などの団体の支持もないのは先に述べたが、予想以上に不公平な扱いを受けたのは、マスコミからであった。当初、泡沫候補として徹底的に無視するというのが方針のようであった。ご存じのように細川氏が告示日前日まで立候補の意思表示をしなかったので、候補が出揃わないからという理由で、テレビでの候補者討論会が次々にキャンセルとなった。選挙戦に入ってから数度、メインの番組での討論会があった。

その中でもひどかったのはテレビ朝日の「朝まで生テレビ」の収録である。各候補が別々に田原総一郎氏のインタビューを受け、それに対する討論を評論家（この人選も怪しい）などの討論会メンバーがするというものであったが、このインタビューがひどかった。

明らかに他候補とは違い、国政マターばかりを質問し、原子力発電に慎重ながらも賛成である田母神氏に核武装するののかとの質問である。また、靖国神社参拝には、天皇も行くべきかなどの質問である。都政と何の関係があるのか。天皇陛下を政治に利用するジャーナリストとしてあるまじき行為である。（詳しくは「W・L誌」4月号一〇八頁、水島 総氏の記事参照）他候補に対する態度とは明らかに違う挑戦的なものであった。

そのマスコミ各社が我々の事務所を取材に来て、驚いたのは「ボラテア」の数と熱気である。毎日9時には数十人も事務所に来ていただき、出入りがあるものの、一日の延べ人数にすると連日百人は超えている。お年寄りから若者まで、職業もいろいろな方々であり、交通費・食費も自前である。正に「手弁当」のボランティアである。仕事がないと事務局が叱られるぐらいに熱心であり、その熱気たるや、取材に来たマスコミ関係者を驚嘆せしめるものであった。

さらに、事務所の外でも、約一万四千か所の選挙掲示板へのポスター貼りもボラテアにより、一日で貼り終わり、（ちなみに細川陣営は最後まで張り終えない掲示板がかなりあったと聞く）候補者名の書いていない「確認チラシ」は都内全域に数百万部ポステイングすることができた。

もちろん、田母神氏の同期を中心とした自衛官OBチームもボランティアとして終始十名程度詰めてくれて、存分な支援をしていただいた。

選挙戦後半には、明らかに他陣営のスパイと思しき人物が複数含まれていたが、情報が流れても、対抗できない程、我々の大量投入作戦には勢いがあつた。

いうまでもなく、東京都内在住者しか投票は出来ないが、全国各地から、献金や励ましのお言葉をいただき、スタッフ一同を強く支援していただいた。

今回の選挙戦を顧みて、我が国の現状を憂える人々が東京のみならず、全国に大勢おられることを実感した。最早、サイレントマジョリテイがサイレントであつては、この国は救えない段階に来ていると思う。つばさ会会員をはじめ、各自衛隊のOBの方々、我が国の将来のために行動していただきたい。また、現職自衛官諸君も政治に大いなる関心を持っていただきたい。

六十一万八百六十五票は、自衛官出身の政治家として最近では最も多い得票である。

田母神俊雄氏は、今後も政治家として、良き日本を取り戻すための努力を続け、真の保守政治の中核となるべく行動するであろう。

つばさ会の皆様、ご支援ありがとうございました。また、今後も田母神俊雄氏を応援し続けていただきたいと思ひます。

東京都知事選挙 田母神俊雄事務所

事務局長 島本順光（元2空佐）